

(記載例)

～ 記載のポイント ～

令和8年度未来につながる持続可能な農業推進コンクールにおいては、公募要領の別紙に掲げる「審査項目」及び「審査基準」に基づき、審査を行います。

応募用紙、推薦調書の記載に当たっては、これらの「審査項目」及び「審査基準」を参考としてご記載いただくようお願いします。

なお、「審査基準」については、あくまで一例となりますので、全ての取組について網羅的にご記載いただく必要はなく、また記載例にない取組についてもご記載いただけます。

令和8年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール応募用紙

応募者情報

応募区分	GAP 部門			
	人材育成の部			
ふりがな	〇〇けんりつ 〇〇こうとうがっこう	ふりがな	〇〇 〇〇	代表者年齢
氏名 (団体名称)	〇〇県立〇〇高等学校	代表者氏名 (団体の場合記入)	校長 〇〇 〇〇	〇〇
住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇		連絡	電話:〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	〇〇県〇〇市〇〇 〇-〇〇-〇		絡	メール:〇〇〇〇〇@〇〇.co.jp
			先	事務担当者氏名:〇〇 〇〇

<取組内容>

応募タイトル	先進的な GAP 教育を通じた〇〇県農業への GAP の普及拡大に貢献する取組						
品目	水稻	※2 経営面積	〇〇	ha	※2 構成員 の人数	〇〇	人
取得中の GAP 認証及び 認証種別	※2 <input type="checkbox"/> GLOBALG.A.P. <input type="checkbox"/> ASIAGAP <input type="checkbox"/> JGAP <input checked="" type="checkbox"/> その他(〇〇県 GAP) <input checked="" type="checkbox"/> 個別認証 <input type="checkbox"/> 団体認証	※2 認証取得 した品目 (すべて記載)	水稻		※2 認証取 得時期 (年月)	〇〇年〇月	

取組開始年、きっかけ、これまでの経緯

平成〇〇年、生徒自らが安全安心な農産物の生産・販売を行い、地域に開かれた教育環境を作ることを目的として、水稲で〇〇県GAP認証を取得し、GAP の取組をはじめた。令和〇年には、国際水準 GAP の5分野を満たす〇〇県GAP認証を取得し、引き続き GAP に取り組んでいる。

取組内容

①生産工程管理の改善に向けた継続的な取組

GAP の取組で重要となる、GAP で取り組むべきことのルール化とルールの共有、実践について、生徒が主体となって取り組んでいる。食品安全の取組では、収穫時の交差汚染を防ぐため、生徒の作業用手袋を収穫用、農薬取扱用、その他作業用に分けて準備し、使用している。

また、日々の農作業では道具の整理、管理が重要であり、農場実習の終了後には農機具を洗浄し、農機具を作業詰所の壁面に姿勢きで配置することにより、道具がいつも整理整頓され、紛失が無くなり、生徒がほ場に農機具を置き忘れるといったこと等が生じなくなっている。

(※必要に応じて取組内容について分かるような資料や写真等を添付)

②生産効率性の向上に向けた取組とその効果

農場実習においては、GAP の取組を通じて生徒が自ら計画を立てて、自主的に行動するようになっている。ほ場ごとの作業計画、作業記録をアプリで管理し、生徒の作業スケジュール管理もアプリで行い、それらデータを生徒間で共有し、効率的な農作業を実現している。

農薬散布、施肥の実施日、実施場所、農薬、肥料の種類、使用量を記録し、生徒間で共有することで、これらの作業の無駄な実施が抑制された。

(※必要に応じて取組内容について分かるような資料や写真等を添付)

③経営の改善に向けた取組とその効果

GAP に取り組むことにより、生徒の安全に対する意識が向上し、農薬や刃物といった危険物が生徒の自主的な取組によりきちんと保管庫、保管場所に整理整頓されるようになった。GAP の取組を通じて、校内における資材の管理が一元化され、在庫量について、校内の誰もが確認できるようになり、無駄な発注がなくなり、資材費全体で〇割程度削減された。

また、GAP の取組を通じて作業手順が整理され、実習での作業ミスが減少し、正品率を向上させる収穫、調整作業が生徒の間で行われるようになり、分量どおりに詰めるパッキング作業が行われ、収穫物のパッキングロス等が低減された。

(※必要に応じて取組内容について分かるような資料や写真等を添付)

④地域の内外への波及に向けた取組

地域での GAP 普及に向けて、地元の小中学生、教員及びその父兄を対象に年〇回、農業体験教室を実施し(毎回〇名程度が参加)、食品安全、環境保全等にとって GAP の取組が重要であることを紹介している。

GAP を普及拡大していくため、平均で月〇回、県内外から視察を受け入れ、卒業生を含めた地域の農業関係者向けの営農教室を定期的に開催し、GAP の取組を紹介している。

(※必要に応じて取組内容について分かるような資料や写真等を添付)

⑤教育機関における人材育成活動

校内で生産した GAP 農産物の輸出に取り組むことによって、将来、生徒が就農した際に、輸出に対応できるよう人材育成を行っている。

生徒たちが、輸出するという目標に向かって協力体制が生まれるよう、小グループによる学習が行われており、生徒主体で話し合い、自主的に計画を作成し、役割分担を行っている。このことにより、特定の生徒に作業が偏ることなく、無理なく実習に取り組めるよう指導を行っている。

また、学校の玄関、農場の出入り口には、GAP に取り組んでいることを説明する看板を設置し、訪問者に対して GAP に取り組んでいることを、生徒がその都度説明できるよう指導を行っている。

⑥教育機関における地域の牽引役としての貢献

〇〇GAP 認証の年1回の更新審査では、公開審査を実施し、審査当日は地域の農業者や行政関係者を受け入れている。令和〇年度の更新審査時には学外の者延べ〇〇名が審査の様子を見学した。

また、県内の農業高校、農業大学の教職員を対象にしたGAP研修会を毎年度〇回実施しており、研修会では新任の普及指導員も受け入れており、県内の教職員・指導者がGAPの基礎から学ぶことができている。

毎秋の文化祭において、校内に GAP のブースを設けて、生徒(学生)を配置し、訪問者に対して GAP の取組を説明している。

GAP の指導を開始した平成〇〇年以降、これまでに〇〇名の GAP の指導を受けた生徒が就農しており、このうち、親元就農した卒業生〇名が新たに GAP 認証を取得するとともに、就職先となった農業法人〇社が新たに GAP 認証を取得している。

直近の経営状況

本校では、水稲〇〇ha で〇〇県GAP認証を取得し、実習等を行っている。

今後の活動方針、その他アピールしたい事項

引き続き、GAP に取り組み、将来の人材育成を行っていくとともに、輸出にも取り組んでいく。また、公開審査も引き続き実施し、地域における GAP 普及にも取り組んでいく。

(※その他、アピール事項等について該当あれば記載)

- ※1 農業生産に関する取組の場合、「個別経営の部」、「団体の部」、「人材育成の部」のいずれかを選択して下さい。
なお、農業者、法人等は「個別経営の部」、市町村、農業協同組合、協議会等は「団体の部」、農業教育機関等は「人材育成の部」を選択してください。
また、流通・加工・販売・消費に関する取組の場合、「実需の部」を選択してください。
- ※2 「個別経営の部」、「団体の部」、「人材育成の部」の方のみ記載してください。
- ※3 本応募用紙の他、各取組に関する既存資料や写真、パンフレット、新聞記事等活動内容を補足する資料を添付いただけます。
なお、添付資料については、枚数制限等ございませんが、ページ数の多い資料を添付する場合は、該当ページのみを抜粋する等、審査の円滑化のため、できるだけ枚数を絞っていただきますようお願いいたします。

(記載例)

令和8年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール推薦調書

【推薦事例（GAP 部門 人材育成の部 生産）】

推薦事例団体名及び代表者名	〇〇県立〇〇高等学校 校長 〇〇 〇〇
応募タイトル	先進的な GAP 教育を通じた〇〇県農業への GAP の普及拡大に貢献する取組
推薦調書作成者氏名及び連絡先	〇〇 〇〇(作成者氏名) 〇〇(作成者所属) 電話： メール：

推薦理由	<p>〇〇高校では、生徒は、日々の授業や農場実習等を通じて、GAP は特別な取組ではなく当たり前の取組であるとして、GAP の考え方が自然に身に付くよう指導が行われており、日々の農場実習等の取組の中で、農業者に求められるスキルとして、GAP の各要素が自然に身に付くよう指導が行われている。</p> <p>また、県下における GAP 教育の先進校として、GAP に取り組んでいることを校外の者に伝える取組を行っており、地域農業への GAP の普及、GAP を理解する農業者、農業指導者の育成に貢献していることから、コンクールの受賞候補に値すると考える。</p>
------	--

【各部に共通する審査項目】

審査項目	取組の特徴等
生産工程管理の改善に向けた継続的な取組	応募者は、生徒が食品安全の知識を得られるよう生徒が主体となり、GAP の食品安全の取組について、作業で用いる手袋を使い分けするといった、わかりやすい形で指導が行われている。
生産効率性の向上に向けた取組とその効果	GAP を継続していくためには日々の農作業データの記録が重要となる。応募者は、営農管理ソフトウェアを導入し、生徒が使用できるよう指導するとともに、GAP の取組の効果を把握するとともに、さらなるコスト削減につなげる取組を行っている。
経営の改善に向けた取組とその効果	応募者は、農場実習の実施を通じて、生産コストの低減につながる GAP の取組を生徒が習得するよう配慮し、GAP の効果が感じられる指導を行っている。
地域の内外への波及に向けた取組	応募者は、農業教育機関として、日々の教育指導の中に GAP を積極的に取り入れ、生徒全員が GAP を習得し、GAP の取組による効果を実感できるような取組を行っている。
教育機関における人材育成活動	応募者は、県下におけるGAPを指導できる数少ない教育機関であり、生徒がGAPを習得するための取組を行っている。特に、校内で生産した GAP 農産物の輸出に向けた取組の推進を通じて、輸出に対応できる農業後継者の育成が行われている点が特筆される。
教育機関における地域の牽引役としての貢献	応募者は、地域での GAP の牽引役、県内における貴重なGAPの推進機関として、公開審査や指導者向けの研修会等の取組を行うとともに、地域に GAP に取り組む農業者を多く輩出している。